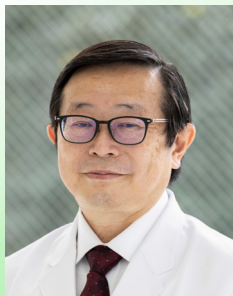


【Contents】

- ・ 病院長ご挨拶
- ・ 診療科紹介
- ・ 就任教授紹介
- ・ 2021年度病院年報発行
- ・ 久松教授が厚労省炎症性腸疾患に関する研究班長就任
- ・ 面会制限の緩和
- ・ 市民公開フォーラムのご案内



編集：杏林大学医学部附属病院
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel 0422-47-5511（代表）
<https://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>



新緑の候、これまでの3年間におよぶ新型コロナウイルス感染症の蔓延も5月8日より第5類扱いとなり、少し平常が戻ってきた印象を受けています。しかし、完全終息というわけではなく、医療機関としてはこれからもこの感染症にかぎらず様々な感染対策を講じながら活動していかなければなりません。このようなwithコロナの状況下においては、ICTの活用を推進していく必要があると考えておりますが、患者さん向けに院内のWi-Fi環境の整備も予定しております。

昨年度は手術室を3室増室（うち1室はハイブリッド手術室）したことに続き、今年度は救急外来における最新の血管撮影室を整備し、手術機能についても一層充実させていきます。各領域における診療体制強化を通じて、地域の医療に引き続き貢献していく所存です。

本年1月から紹介患者さんを対象とした受診予約の電話受付も開始しておりますが、前方連携、後方連携の円滑化にも力を注いでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

病院長 近藤 晴彦

診療科紹介

産婦人科

産科では全ての女性の妊娠に「安全と快適さの両立」を目指しています。多摩地域に2か所の母体救命対応総合周産期母子医療センター、いわゆる“スーパー総合周産期センター”として、最重症母体を受け入れ、最先端の医療を提供するだけでなく、無痛分娩も承っています。また、疾患のある女性に妊娠する前から情報提供するプレコンセプションケア外来、胎児超音波精査・出生前診断外来を開設しています。リプロ外来では、顕微授精を含む生殖補助医療を実施し、妊娠前から出産後まで大学病院ならではの総合力を活かした切れ目のない医療を提供しています。

婦人科では良性疾患から悪性まで幅広い疾患を取り扱っています。子宮筋腫や腺筋症などは可能な限り低侵襲手術を導入しており、またメッシュ法を含めた骨盤臓器脱の手術も行っています。悪性疾患は子宮頸癌・体癌、卵巣癌など全ての婦人科悪性疾患に対して、最新のガイドラインに基づいて手術、抗がん治療、放射線治療を行っており、特に子宮体癌に対しては腹腔鏡やロボット手術を積極的に行っています。若年婦人科がん患者のQOL維持のためにすこやか女性外来を開設し、長期間にわたる支援を行っています。



診療科長・教授
小林 陽一



2023 年 4 月就任 教授紹介



耳鼻咽喉科・頭頸科
(臨床教授) 横井 秀格

順天堂大学医学部卒業
同大学大学院修了 博士(医学)
平成 5 年順天堂大学医学部附属順天堂医院 耳鼻
咽喉科入局、平成 23 年杏林大学医学部 耳鼻咽
喉科学教室 着任

この度、耳鼻咽喉科頭頸科の臨床教授を拝命いたしました。
耳鼻咽喉科の中で鼻科学を subspecialty としております。

これからも大学病院における高度な臨床、研究、教育をバ
ランスよく、他科の医師、パラメディカルとの連携の下、安
全に施行してまいりたいと存じます。何卒、ご指導ご鞭撻の
程、お願い申し上げます。

2021 年度 病院年報を発行

外来・入院診療実績、医療の質・自己評価、
各診療科の診療体制や先進医療への取り
組み、診療実績などを紹介しています。
本誌は医師会や地域の医療機関等へお届
けしています。また、病院 HP でもご覧
いただけます。(2023 年 4 月発行)



研究最前線

厚生労働省 炎症性腸疾患 に関する研究班長に継続就任

消化器内科 久松理一教授は、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業の「難治性炎症性腸管障害に関する調
査研究」代表者に、令和 5-7 年度の任期で就任しました。令和 2-4 年度に続き 2 期目の就任です。

クローン病と潰瘍性大腸炎に分類される炎症性腸疾患 (IBD) は、難病に指定されており、患者数はそれぞれ約 7 万人、
約 22 万人と推定されています。下痢や腹痛などを伴い、場合によっては全大腸の摘出手術が必要になるなど、生活の質に
大きく影響を及ぼす疾患です。

◆◆◆ 久松 理一 (消化器内科 診療科長・教授) ◆◆◆



1 期目は、コロナ対応に追われる状況下でもオールジャパン体制で多くの成果を上げることがで
きました。引き続き、IBD 診療の質向上と患者さんの QOL 改善に取り組んでいきます。

また、当院でも、多くの診療科の協力を得て炎症性腸疾患包括医療センターを開設しており、こ
れまでに 1,000 人超の患者さんを診療し、国際共同治験や多施設共同研究でも実績をあげています。
地域のそして日本の基幹病院として頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願
い申し上げます。

面会制限の緩和

新型コロナウイルス感染症の状況に伴い、禁止していた
入院患者さんへの面会を 2 月 20 日から緩和しています。

《面会の条件 (全てに該当する方のみ)》

- 新型コロナウイルスワクチンを 3 回接種した方
- ・接種証明書などを提示できる方

※重症・急変等で病院から来院要請、病状説明や手術の
待機等の場合は除く

- 無症状の方 (体温 37.3℃未満)

- マスク (不織布) 着用

- 面会可能回数：患者さん 1 名に対して週 1 回、
面会者 2 名迄、15 分以内

- 面会可能時間帯：14 時～17 時

※感染症の状況により変更になります。

最新の情報は HP をご覧ください。



杏林医学会市民公開フォーラム

消化器がん医療の最前線 - 予防から早期発見、治療まで -

日程：5 月 27 日 (土) 13 時 55 分～16 時
会場：杏林大学病院 第 2 病棟 4 階大学院講堂

講演① 検査による早期発見と内視鏡治療
消化器内科 学内講師 大野亜希子

講演② 胃がん (がん & GIST) に対する外科治療の最前線
上部消化管外科 講師 竹内弘久

講演③ 大腸がん～早く見つけて、しっかり治そう！
下部消化管外科 講師 吉敷智和

講演④ 膵臓がん治療の最前線～早期発見と最新の治療
肝胆膵外科 准教授 鈴木 裕

講演⑤ がん薬物療法の進歩
腫瘍内科 臨床教授 長島文夫

* 参加費無料、要申込み 詳細は QR コードから

* 新型コロナウイルス感染症の状況に
より中止となる場合は、申込者にご
ご連絡します。

